

2021-March
No.120

桜建会報

OKEN

桜建賞

斎藤賞

加藤賞

学生支援

研究懇談会

建築講座

見学

ゴルフ大会

研修旅行

懇親会

特別維持会員

正会員

賛助会員

観桜会

NUアート倶楽部

スキー同好会

桜建デザイン・コンクール

桜建会支部

contents

特集◎**会員のみなさまへ**

桜建会会長・岩崎俊治インタビュー——2

桜建会理事・アンケートによるメッセージ——3

事務局だより——5

斎藤賞・加藤賞・桜建賞 2020 年度受賞者一覧——6

オール日大建築系 2020 年度授与賞・受賞者一覧——8

研究室紹介 空間構造システム研究室 都市計画研究室——10

学部ニュース——11

◎コミュニケーション
◎連携
◎ネットワーク
◎協力
◎情報共有化

COVID-19
非常事態宣言
不要不急

日本大学桜門建築会
<http://www.okenkai.jp/>

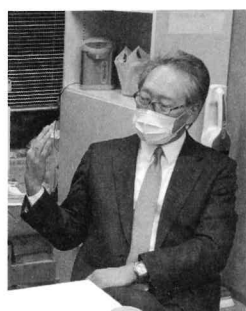
会員みなさまへ

コロナ禍の同窓会を考えてみる



佐藤慎也広報委員会委員長

昨年から続く世界規模の新型コロナウイルス感染拡大は、丸1年が経過した。前号では各学部の状況や対応、卒業生・学生の方の日常の変化や今後の展望を語っていただいた。今号では、当会として、この災禍をどう乗りこえるか、会長の岩崎氏と理事のみなさんにご意見をうかがった。岩崎会長は、佐藤広報委員長との対話の中で、理事にはアンケート形式で会員みなさまへ、連帯のメッセージを伝えます。



岩崎俊治桜建会会長

会長から、みなさまへ

（桜建会でやれること）

佐藤◎お忙しいところ、事務局までおいでいただきありがとうございます。さっそくですが、この1年、新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄されてきました。桜建会の活動も大幅に制限がされてしまい、イベントもできませんでしたが、各種懇談会も開催が見送られ、総会も集まることができず、書類にて行われました。

岩崎◎そうなんです。それでも、かろうじて正副会長・正副委員長運営会議は3か月に1回のペースで行いました。この非常時でも、やれることはあるし、収束後に備えておくことはたくさんあると思っています。

佐藤◎改めて桜建会という大学の同窓会の存在意義を考えさせられました。

岩崎◎同窓会というと、いろいろな場を通しての校友との懇親が

大きな役割です。それがコロナ禍で、もっとも難しい状況になってしまいました。

佐藤◎大学も半年間は入構禁止でしたし、1年生は未だに同級生すべてに会うことはできていません。

岩崎◎ですから、ここ当分、この桜建会で重要な活動となるのは、年3回、会員みなさんにお送りする桜建会報の発行だと思うんですね。学業や仕事に忙しい平時には目を通す機会が少ない人でも、在宅の時間が増えていると思います。ぜひ、この機会に桜建会報を通して情報を受け止めて、交流を促してくれることを期待しています。

それから、昨年は卒業式に桜建会からの参加はかありませんでしたが、桜建賞・齋藤賞・加藤賞を選出し、頑張っている学生への応援は、例年と変わらず行いました。また、学会選挙の先生方への支援も同様です。

佐藤◎大学の教員は、オンライン

授業のための準備に追われた1年でしたが、来年度はもう少しゆとりができると思います。学生へのオンラインでの接し方も、だいぶ慣れてきました。

岩崎◎現在、人が集まった事業はできませんが、WEB環境の整ったなかで、ぜひ実現したいのはWEBを使った事業です。大学の授業としてはできない建築に関わる興味深いテーマで、講演、またはパネルディスカッションを開催し、OB・OGや学生に広く配信したいと思っています。現在、5月ごろの開催に向けて、桜建会の事業委員会で具体的に検討してもらっています。

桜建会は、社会人と先生、学生にとって、日本大学建築系各学科の校友の貴重なアイテムです。コロナ禍の今でも、そして平常に戻ったときのためにも、活動の糸口を探し出すべきと考えます。なにはともあれ、早くコロナ

が収束し、以前とまったく同じというわけにはいかないかもしれませんが、ふつうの生活に戻り、大学に学生が戻り、桜建会の方गतとも、気軽に会える日が来ることを心から願っています。

（建築界のこれからと世界のこれから）

佐藤◎岩崎会長はご自身で会社をもち、経営者として建築に関わっていらっしゃると思いますが、これからの建築界はどのようなと思いますか。

岩崎◎建築界においても、コロナ収束後は基本的な業態は元に戻る

と考えています。設計も、施工も。モノづくりである建築は、ハード的には大きな変化は見込めないと思いますが、現場作業のロボット化は進むんじゃないでしょうか。それに、コロナ禍の経験から、建築の環境設備のあり方が見直されると思います。ソフト面では、WEBの活用などで、働き方が大きく変わるでしょう。それは変化の少ない建設業のなかで、CAD以来の可能性を秘めていると思います。

建設業で長年問題とされる働き方改革においては、良い方向に改善される可能性もあります。今回のウイルス感染対策と近年のさまざまな防災対策、そして、アフター・

コロナ時代の環境の変化に対して、建築がやれることはたくさんあり、その方向性はたいへん重要になるのではないのでしょうか。

佐藤◎建築に限らず、この世界、この社会は、どうなりますか。

岩崎◎世界がグローバル化したことを、改めて気づかされました。反対に地球のスケール感も小さくなったと思います。地球はウイルス・地球温暖化・人口過多など、多くの問題の真只中にいます。各国は必要な情報を共有化し、この星で多くの人びとが生きていくために協力し合える社会へと、パラダイムシフトしていくことを望みます。

理事から、みなさまへ

理事には、以下の質問に答えるかたちでメッセージをいただきました。（掲載は順不同です）

質問①コロナ禍で桜建会の役割と行うべきことはなんですか？

質問②ご自身の立場から、建築界の変化と役割をどう考えますか？

質問③コロナ収束後の世界(社会)は、どのようなかたちになると思いますか？ 期待することはありますか？

質問④メッセージをもうひと言

岸本孝一（文化シャッター(株)営業推進部一部顧問 理工建-52)

①桜建会の役割はコロナ禍においても不変であるが、やり方を変える必要性が出てきた。ソーシャルディスタンスをとり、マスクを付け、消毒をするなどして会議ができる時は良かったが、非常事態宣言が発出されるくらいになると集まること自体ができなくなり、やむを得ずメールなどでの机上会議となっている。オンラインでの会議にすればよいといってもハード面・ソフト面ともにすぐに移行できるものではない。メールなどの現在あるもので何とかしのいでい

きつつ、コミュニケーションを図っていくことになる。将来のため、年配者も含めオンライン会議ができるよう体制を整えていくことが必要と思われる。

②建築界は、飲食業界とは異なり、建築界の役割は、より良い建物を完成させることであり、それが達成できなければ存在意義が問われる。建物完成に向けコロナ対策を取りつつ努力をしているのが現状である。私は営業職で、顧客と会う機会が減少しているもののお互いに現状を認識しており、メールなどで意思疎通を図っており、

大きな支障とはなっていない。今のように在宅勤務が増えてくると建物に対する考え方も変化するので、建築的、設備的な面での対応が必要と思われる。

③コロナ収束後は、ほぼ以前のよき姿に戻らすが、この経験を活かして次のパンデミックには、より迅速な対応ができるようにしておかなければならない。世の中が進み医学面でも情報通信面でも発展していくであろうが、十分な対応ができるまでにはまだ時間がかかると思われる。

④今までなんでもなかった「人と会い、コミを図る」ということの

大切さを十分認識した。ワクチンが思ったよりも早く開発され、外国では接種が始まっている。日本でも接種が始まり、コロナが早く収束することを期待したい。

齋藤公男 (日本大学名誉教授 新工 -36)

①大学教育の現場に立つ先生方のご苦労はたいへんなものと推察されます。社会とのつながりが薄れつつあることも、学生諸君にとっては不安と思われます。第一線でご活躍している桜建会諸氏が学生と交流できるようなON LINEを利用した機会が望まれます。私も今、試行しています。

②既往の価値観や評価軸と違った視座を新たに考える機会になるかもしれません。この度、多くの皆さんとともにAND(Archi-Neering Design Award)を立ち上げることができました。多様な分野(特にエンジニア)からのたくさんの応募がありました。

③効率化やスピード化だけでなく、またITの力だけに頼らない人間の知恵・工夫・情熱を発揮していくことが求められるでしょう。量より質、建築のデザインや作り方も少し変わるにより、かつてB.フラーが発案した「宇宙船地球号」の操縦マニュアルが生まれるはずです。

④今、冬山は雪が多いそうです。第2回「桜建会・スキー同好会」が開催できなかったのはたいへん残念。よく学び(働き)、よく遊ぶ。コロナに負けない体力と気力がなにより大切と痛感しています。活動再開に備えて、いろいろなエネルギー(ポテンシャル)を高め、蓄えたいものと心する毎日です。また元気でお会いできますようー。

広田直行 (生産工学部建築工学科教授 生産工 -59)

①Zoomなどにより、大学と企業の情報交換の場の提供や、求人情報や面接の機会を提供する。

②建築界の動きがみえにくくなっ

ている。

③DXへの移行は確かと考える。また、社会が必要とする人材も変化する。以前より、対面のコミュニケーション機会が重要となる。

酒匂教明 (短期大学部建築・生活デザイン学科教授 理工建 -H8)

①桜建会の主旨は、会員相互の親睦機会の提供と受け取っています。会員の親睦をコロナ禍で実施するとなると、現実的にはオンラインになると思います。オンラインなら移動時間を要することなく参加しやすいため、たとえば、持ち回りで建築各業界(設計、建設、設備、材料、専業事業など)の紹介をしたり、専門職の講演などの実施があげられます。それにより、他業種への理解が深まり、また、意見交換などを通じて交流の広がりが期待できます。面と向かっての懇親会ができないのが残念ですが。

②コロナ禍では在宅勤務が増えるなど、働く環境自体に変化が求められました。たとえばオフィス空間が不要となり自社ビルの売却などが報道されていますが、ある面では在宅に関連した新たな建築的ニーズも提案されています。個人的には、コロナ禍の期間と建築物の寿命を比較すると長さが異なり一過性のものと思われるので、コロナ禍の建築界の変化は限定的にとらえています。

③コロナ収束後は、多くはコロナ禍前に戻る気がしていますが、在宅勤務の仕組みを経験してきたことを基に、働き方として人に仕事をつけるのではなく、仕事に人をつける働き方を期待しています。それがライフワークバランスの実現の第一歩と考えています。

谷口尚範 (清水建設(株)設計本部 構造設計部4部 理工建 -60)

①コロナ禍で感じるのは、いかに人がお互いに接しながら生活しているかということである。飲食、音楽活動、芸能活動あらゆる方面

で立ちいかになくなっている業種も多い。一方で、在宅勤務時のオンライン・ツールによるコミュニケーションなどは生活の一部となりつつあり、私生活でも親戚や、遠い家族とのコミュニケーションに利用したり、講演会などにも参加している。直接人と会わないオンライン・ツールを利用したコミュニケーションは少し寂しいものの、この移動をとまなわないコミュニケーションには人と人をつなげる新たな可能性を感じる。桜建会は会員と桜建会、会員と会員の交流をより便利に簡易にすべく、これらのオンライン・ツールをどんどん利用して、新しいつながり方を模索していくことが良いと思います。

②仕事の変化としては、在宅勤務により時間が有効利用できるなどの利点は感じますが、モノづくりをしている現場では良い方向への変化は難しいような気がします。③よりグローバル化が進む気がします。

飛坂基夫 (飛坂技術士事務所 所長 理工建 -42)

①今までは会報と対面での交流であったが、今後はWebを活用した方法が加わると考えます。Webを使うことで、今まで交流が難しかった地方在住の会員との交流を活発に行うことができるのではないのでしょうか。

②いろいろな業務において自動化が進むと考えられる。このことにより、コミュニケーション(人間関係)をとることが難しくなる。役割は大きく変わらないと考えるが、少子高齢化により需要が変化し量的には減少すると考える。

③対面で行うことが減り、Webが定着する。そして、人、仕事の管理が難しくなり、都市と地方の差が少なくなる。その結果として、人間らしい生活ができることを期待する。人間らしい生活とは何かの議論も必要になります。

④日大卒業生の「きずな」が深ま

ることを期待しています。

山崎誠子 (短期大学部建築・生活デザイン学科准教授 他大学 -59)

①疎かになりがちで、つながり交流の場をつくる。

②特に今は、変化を感じていない。

③時間がたてば、また元の通りになるのではないかと。

田所辰之助 (理工学部建築学科教授 理工建 -61)

①卒業生のネットワークをつくるのが桜建会の大きな役割とやはり思います。コロナ禍で、情報交換の方法に選択肢が増えました。これを活かし、卒業生相互の交流に、より柔軟なかたちをつくり出すことができるかもしれません。卒業生にとって、桜建会に入会し活動をともにすることの利点は何か。あらためて議論し、新たな交流のかたちを生み出していけると良いと思います。

②コロナ禍をきっかけに情報分野

の変革が促進され、AIの導入などが進むと、建築に対する考え方の大きな変換がなされていくと思います。従来の建築像が更新され、社会と結び合う新たな建築のありようが本格的に模索されていくように思います。桜建会がそのための議論の場となり、その議論が在学生にも開かれて、卒業生と在学生をつなぐ役割を果たしていけるようだと良いのかもかもしれません。

③情報技術の進展にとまない、就労のかたちが多様化し、さまざまな働き方が可能になっていく一方、社会の格差もまたますます開いていくように思われます。人と人の交わりも、さまざまな可能性が開かれていくと同時に、もしかすると限定的なものになっていくという側面もあるのかもかもしれません。こうした二面性をもつ社会に対し、建築が引き受けていける課題はなにか。こうした問題がより顕在化していくと、新たな時代の建築の羅針盤になってくれるのかも

ません。

矢澤一重 (桜建会副会長 理工建 -55)

①コロナが収まるには数年かかると言う話があるなか、卒業生に対し交流の場と情報取得ができる環境を整えることが会の役割だと思います。そういう環境をいかに設けるかが課題だと考えます。

②在宅ワークが推進される中、オフィスや職場環境はもとより働き方そのものの変化が多数起きると思われます。資源(水・空気・太陽)を有効活用し、安全・安心な生活(職場)環境を低コストで導入できる技術が求められるし、それを実現することが役割と考えます。

③収束しても治療薬が開発されるまで時間がかかると思われます。人と人のかかわり方(接し方)が現在よりも少なくなると思います。コロナ前まで当たり前に行われていた行為が変化し、それにとまない社会環境は大幅に変化してしまうのではないかと考えます。

事務局だより

令和3年度の桜門建築会総会のご案内

来る5月26日(水)に東京ガーデンパレスにて総会の開催を予定しております。(新型コロナウイルス感染症の状況により中止の可能性があります)
現在桜建会事務局は、火曜日と木

曜日に在室しておりますので(その他は在宅勤務)、ご質問など、何かご連絡がございましたら、在室日に

お電話をいただくか、メール(info@okenkai.jp)にてお問合せください。

日時/令和3年5月26日(水) 総会・18:00～ 懇親会・19:00～
会費/8000円
会場/東京ガーデンパレス

新入特別維持会員のご紹介

新規入会者 氏名/卒業年/勤務先 (令和2年11月7日～令和3年2月16日) 1名

堀川真之 理工建 -H21 日本大学工学部

齋藤賞・加藤賞・桜建賞 2020年度受賞者一覧 ＊受賞作品の紹介は次号に掲載いたします

齋藤賞

本間俊希 (理工建築/修士論文)
「床吹出型全館空調方式を採用した住宅の床下空間における空気分配・温度変化及び送風量低減に関する研究」
指導/教授・蜂巢浩生、助教・井口雅登

川口雄暉 (理工建築/修士論文)
「天然ゴム系積層ゴムの水平・上下連成部材モデルの構築に関する研究」指導/教授・秦一平

三浦智美 (生産工/修士論文)
「長方形断面を有する鉄骨系柱材の変形性能に関する研究」指導/教授・藤本利昭

Purev-Erdene BAT-ERDENE (工/修士論文)
「DEVELOPMENT OF ENERGY EFFICIENT BUILDING MATERIALS BY USING PHASE CHANGE MATERIALS IN FLY ASH FOAM CONCRETE (相変化材料 (PCM) 混合フライアッシュフォームコンクリートによるエネルギー効率に優れた建築材料の開発)」指導/教授・Sanjay PAREEK

加藤賞

黄起範 (理工海洋建築工/修士論文)
「インドネシア共和国における水上交通を活用した首都移転計画の提案 - 木質資源を活かした環境配慮型の複合庁舎の設計-」指導/専任講師・佐藤信治

川北章悟 (理工海洋建築工/修士論文)
「海底地すべりの起因となる水膜の形成要因に関する研究 - 堆積物の引張強度を考慮した水膜形成条件-」
指導/教授・北嶋圭二、客員研究員・朝比奈大輔、元教授・中西三和

遠藤優太 (理工海洋建築工/修士論文)
「円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する実験及び数値的研究」
指導/教授・近藤典夫

桜建賞

伊東梨沙、影山拓海、藤本 浩太 (理工学部建築/卒業論文)
「BEMS データを用いた熱源機、空調機の経年劣化傾向の算出」指導/教授・蜂巢浩生、助教・井口雅登

本西凌太、DIAH FAUZIAH FACHRANI (理工学部建築/卒業論文)
「主系の減衰を考慮した各 D.M. 同調システムの最適設計式に関する研究」
指導/教授・秦一平、助手・阿久戸信宏

鷲巣光宏 (理工学部建築/卒業論文)
「非線形 FEM 解析による RC 立体耐震壁の損傷評価」指導/教授・長沼一洋、教授・田嶋和樹

小山和輝 (理工学部建築/卒業論文)
「新型コロナウイルス感染症拡大下における子どもの外出行動の変化に関する研究 - 練馬区・板橋区の子育て世帯を対象として-」指導/助教・井本佐保里

松本海空 (理工学部建築/卒業論文)
「熊本地震後の住宅地にみる自律的な復興の姿 - 熊本市東区秋津校区第 1 町内会を対象として-」指導/助教・井本佐保里

桜建賞

森野和泉 (理工学部建築/卒業設計)
「ARCHITECTURE as IMPACT」指導/准教授・古澤大輔

今村亮太 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「円筒形貯槽タンク内のスロッシング及びスワーリング応答解析」指導/教授・近藤典夫

奥祐太郎、久良木霧、佐俣夏子、御園生大輝 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「PCaPC 圧着梁のせん断抵抗機構に関する実験的研究」指導/教授・福井剛

片平ころ、渡邊朝陽 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「琵琶湖周辺の水郷集落における水利用・管理の実態に関する調査研究
- その 1 住民生活に見る水利用 その 2 洗い場の設置形態及び利用形態と水路の管理形態 -」
指導/助教・菅原遼、特任教授・畔柳昭雄

桐谷凌、大平雄志 (生産工学部/卒業論文)
「ソイルセメント山留め壁の鉛直支持力に関する研究 - 加圧土槽実験による地盤の拘束効果の考察 -」
指導/准教授・下村修一

小宮莉奈 (生産工学部/卒業論文)
「『3m × 3m × 5.4m の最小住宅』設計課題における空間構成の方法の研究」指導/准教授・篠崎健一

内海龍太 (生産工学部/卒業論文)
「東京都・埼玉県における大規模住宅団地のゴミ問題の顕在化に関する研究」指導/准教授・山岸輝樹

内野佳音 (生産工学部/卒業設計)
「綴く半透明の物語」指導/准教授・篠崎健一

下田ことみ (生産工学部/卒業設計)
「ヨハクリング」指導/准教授・北野幸樹

伊原明伸 (工学部/卒業設計)
「継ぎ町 - 履歴を残すこと、そして生きること -」指導/教授・森山修治

田中拓弥 (工学部/卒業論文)
「ポリマーセメントモルタルの性能評価 - 接着強さ性状及び中性化抵抗性に及ぼす吸水調整材の塗布量の影響 -」
指導/准教授・齋藤俊克

藤井翔也、山川李杜 (工学部/卒業論文)
「Rhinoceros × Python を用いた構造デザイン」指導/教授・Buntara S. Gan

佐藤愛恵、山崎眞優 (工学部/卒業論文)
「雑誌『新建築』に見る掲載作品の研究」指導/教授・速水清孝、助教・高橋岳志

渡辺伊久美 (工学部/卒業論文)
「火災初期における階段室内の煙挙動と温度変化の検証」指導/教授・森山修治

水上桃花 (短期大学部/卒業研究・設計)
「岩瀬のターミナル - 船と路面電車の交通結節点 -」指導/教授・矢代眞己、助手・石田優

武田圭一 (短期大学部/卒業研究・論文)
「避難施設の感染症予防に関する一考察」指導/准教授・廣石秀造

オール日大建築系 2020年度 授与賞・受賞者一覧

| 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 |
|---|
| [齋藤賞] <p>環境系および構造系分野の優れた修士論文に対し、齋藤賞基金に基づき、桜門建築会より授与。元日本大学副総長、理工学部長であった齋藤謙次先生の高い業績を称えて設けられた。</p> * 6 ページ参照 |

[吉田鉄郎賞]
設計・計画系分野の優れた修士論文および修士設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化の優れた論考を残した吉田鉄郎先生の業績を記念して命名。
・八巻健太「1970年代におけるモダニズム建築批判としての形態理論の展開に関する研究 - 日本の建築批評論壇上における「フォルマリズム」の概念をめぐるて-」〈修士論文〉指導：田所辰之助教授
・宇佐見拓朗「再生建築における空間の構成方法とく床/壁/天井>の状態の関係性に着目した分析及び設計提案 - 足立区千住の既存住宅をケーススタディとして-」〈修士設計〉指導：古澤大輔助教

[駿建賞]
環境系および設計・計画系分野の優れた修士論文および修士設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。
・山上哲哉「非比例減衰系の固有値推定に関する基礎的研究 - 基礎免震モデルにおける粘性減衰定数及び刺激関数の推定方法について -」〈修士論文〉指導：秦一平教授
・月成真隆「開口補強筋を用いたプレストレストコンクリート有孔梁の構造性能に関する研究」〈修士論文〉指導：重枝豊教授、加藤千晶助手
・神長優太「本陣建築の座敷部の平面と寸法構成の類型に関する一考察 - 中山道に面する現存遺構の座敷部の位置付けに着目して-」〈修士設計〉指導：長沼一洋教授、田嶋和樹准教授
・荒井聖己「『要素的復元』を設計手法とした近代化産業遺産の再生・活用計画の提案 - 旧志免鉱業所堅坑檜の活用を対象として-」〈修士論文〉指導：重枝豊教授、加藤千晶助手

[桜建賞]
優れた卒業論文および卒業設計に対し、桜門建築会より授与。
* 6 ページ参照

[駿優賞]
優れた卒業論文および卒業設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。
・保坂翔太「鉛直振動と水平振動を対象とした複合振動の道路交通振動による体感振動評価」指導：冨田隆太教授
・岩田あすか「フェンス用金網のテンション・ネット構造への適用性に関する実験的研究」指導：宮里直也教授、岡田章特任教授、廣石秀造 (短大) 准教授
・今関慶「損傷スペクトルを用いた RC 造建物に対する地震損傷評価手法の検討旧基準で設計された RC 造校舎に対する耐震補強前後の損傷シミュレーション」指導：長沼一洋教授、田嶋和樹教授
・高橋賢、岩原慶「構造骨組の応力が最大となる設計用屋根上積雪分布に関する基礎的研究」指導：中島肇教授、石鍋雄一郎 (短

大) 准教授
・篠原大亮「一葉双曲面構造の柱状ユニットを連結したアーチ構造に関する実験的研究」指導：宮里直也教授、岡田章特任教授、廣石秀造 (短大) 准教授
・菅野尚人、小町弘汰、荒井美咲「夜間景観の構成要素による選好空間の分析に関する研究 シミュレーションにもとづく景観評価手法の検討」指導：宇於嶋勝也教授
・風間花「商店街を看取る - 放置された都市開発計画地の一時利用と解体 -」指導：山中新太郎教授

| 奨励賞 |
|--|
| [奨励賞] <p>優れた修士論文および優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。 ・高須賀弘忠「コンサートホールにおける ASW 評価のための初期側方エネルギー率の音響インテンシティによる測定法」〈修士論文〉指導：橋本修教授、羽入敏樹教授 ・矢田部瑛平「基準化損失エネルギーに基づく過剰間隙水圧モデルに関する研究 - サイクリックモビリティに関する検討 -」〈修士論文〉指導：山田雅一教授 ・駒橋拓「市街地再開発事業完了後における空き床への「公益施設」導入に関する一考察」〈修士論文〉指導：根上彰教授、泉山豊威助教 ・小田島立宜「台東区旧坂本小学校の再生による周辺地域活性化計画 - 下谷・根岸地域におけるコミュニティの再構築を目的とした文化交流拠点の提案 -」〈修士論文〉指導：今村雅樹特任教授 ・田中泰成、松本愛「カーティオイドマイクロホンを用いた吸音率測定の高精度化」〈卒業論文〉 指導：羽入敏樹 (短大) 教授、星和磨 (短大) 教授、鈴木諒一 (短大) 助手 ・上村聖、森田駿平「勾配屋根における膜材料を利用した屋根雪制御方法に関する実験的研究」〈卒業論文〉指導：中島肇教授、石鍋雄一郎 (短大) 准教授 ・石田千裕「コレクションと常設展示室の内部構成に関する研究」〈卒業論文〉指導：佐藤慎也教授、堀切梨奈子助手 ・志澤卓「磨島の痕跡 - 備忘録的建築群 -」〈卒業設計〉指導：山中新太郎教授</p> |

| 理工学部海洋建築工学科・理工学研究科海洋建築工学専攻 |
|---|
| [加藤賞] <p>もっとも優れている修士論文に対し、桜門建築会より授与。海洋建築工学科を創設された元理工学部長の加藤渉先生の功績を称えて設けられた。</p> * 6 ページ参照 |
| [桜建賞] <p>* 7 ページ参照</p> |
| [海建優秀賞] <p>もっとも優れている卒業論文に対し授与。 ・天谷光、黒沼亜美「滑り基礎構造建物の 2 方向振動台実験」指導：北嶋圭二教授 ・小出将貴「港湾空間の一般開放に関する研究 - 市民の利用促進を目的に開放された事例を対象として-」指導：桜井慎一教授、寺口敬秀助手</p> |

[海建賞]
優れた卒業論文に対し、海洋建築工学科より授与。
・大島一希、掛札捷人、高須健亘「津波避難困難地域における避難計画の最適化に関する研究 - 千葉県勝浦市興津地区の例 -」〈卒業論文〉指導：星上幸良准教授
・高橋勇多、樽井寛「サンゴ礁海岸における供給源減少に伴う海岸侵食に関する研究」〈卒業論文〉指導：小林昭男教授、野志保仁助教
・佐藤駿介「生業に宿る - 小田原宿の構図と生業の関係性による再編 -」〈卒業設計〉指導：佐藤信治専任講師
・山戸善伸「半透明の遺産 - 地球的建築解を用いた足尾銅山転換計画 -」〈卒業設計〉指導：小林直明教授
・塩島宇晶、村山裕樹「GIS を用いた災害時における主要病院の受入れ人数の算定に関する基礎的研究」〈卒業論文〉指導：恵藤浩朗准教授
・落合淳貴「洪水・内水氾濫発生時における高齢者の垂直避難に関する研究」〈卒業論文〉指導：山本和清准教授
・秋本将司「振動水柱型波力発電装置の空気室特性の非線形性に関する実験的研究」〈卒業論文〉指導：居駒知樹教授、相田康洋助教

| 生産工学部建築工学科・生産工学研究科建築工学専攻 |
|--------------------------|
| [斎藤賞] <p>* 6 ページ参照</p> |

[金井賞]
優れた修士論文に対し、建築工学専攻より授与。元日本大学副総長、生産工学部長の金井清先生が地震学で高い業績 (朝日賞受賞) を上げたことを称え設けられた。
・渡邊健太郎「電車利用者の改札外におけるスマホ利用実態に関する研究」指導：岩田伸一郎教授

[桜建賞]
* 7 ページ参照

[修士設計賞]
・佐藤裕士郎「湯の伝統的な権利制度に基づく共同浴場を核とした地域空間活性化の計画 (伊香保温泉における実践的探求)」指導：篠崎健一准教授

[卒業論文賞]
優れた卒業論文に対し、建築工学科より授与。
・桐谷凌、大平雄志「ソイルセメント山留め壁の鉛直支持力に関する研究-加圧土槽実験による地盤の拘束効果の考察-」指導：下村修一准教授
・小宮莉奈「『3m x 3m x 5.4m の最小住宅』設計課題における空間構成の方法の研究」指導：篠崎健一准教授
・内海龍太「東京都・埼玉県における大規模住宅団地のゴミ問題の顕在化に関する研究」指導：山岸輝樹准教授
・佐藤優樹「竹を用いた建築物について-インドネシア・バリ島のバンブー建築 -」指導：塩川博義教授
・石塚拓朗、入江遥平、坂井愛哉、反田晃輔「アルミニウム山形材とスギ集成材による合成構造梁に関する実験的研究 - 純曲げ実験 -」指導：小松博教授
・板垣鉄、岩垂優弥、川瀬大志、坂本旭、須藤康太「面材張り耐力壁の釘の打ち増しによる危険性について」指導：鎌田貴久専任講師
・宇都宮陸、榎本吉優「試設計による低層建築物への CES 構造の適用に関する研究 - 耐力曲線を用いた CES 柱断面の検討 -」指導：藤本利昭教授
・榊間淳平「超高層建築物のシーリング材に含まれる可塑剤の揮発速度と劣化度との関係」指導：永井香織准教授

[UIA 記念賞]
優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。昭和 53 年国際建築家連合主催の国際コンペでフランス建築アカデミー賞、昭和 56 年エジプト賞およびワルシャワ建築計画局賞の受賞を記念して設けられた。
・須賀友美「ニューノーマル団地 - 職住隣接のススメ -」指導：岩田伸一郎教授

[卒業設計賞]
優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。
・内野佳音「緞く半透明の物語」指導：篠崎健一准教授
・下田ことみ「ヨハクリング」指導：北野幸樹准教授
・須賀友美「ニューノーマル団地 - 職住隣接のススメ -」指導：岩田伸一郎教授
・井上了太「有終の塵」指導：岩田伸一郎教授
・小宮莉奈「きづく - 流れる音楽、彷徨う私、見つける物語 .-」指導：篠崎健一教授
・鶴巻愛瑠「もっけみち、みっけ。-商店街に浸透し、息づく暮らし。-」指導：北野幸樹准教授
・山田航士「ヘテロトピアの森～都市空間の裏側に与える自然の居場所」指導：岩田伸一郎教授
・新井菜緒「親水都市 水と共存する新たな暮らし方」指導：渡邊康教授

| 工学部建築学科・工学研究科建築学専攻 |
|--------------------------|
| [斎藤賞] <p>* 6 ページ参照</p> |

[桜建賞]
* 7 ページ参照

[北桜賞]
優れた修士論文に対し、建築学専攻より授与。
・岡部真純「歴史的価値を意識した地域の継承に関する研究」指導：市岡綾子専任講師

| 短期大学部建築・生活デザイン学科 |
|--------------------------|
| [桜建賞] <p>* 7 ページ参照</p> |

[自主創造賞]
優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会建築部会からの寄金に基づき、建築・生活デザイン学科と校友会建築部会より授与。
・高木まゆか「自宅の 4 室の残響時間の測定 - 残響時間に影響する要因を調べる -」〈卒業論文〉指導：星和磨教授

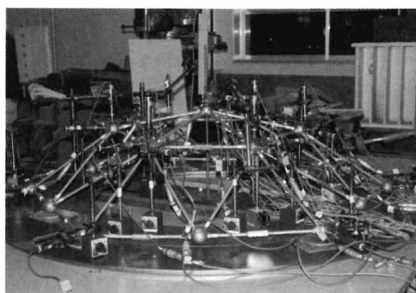
[奨励賞]
優れた卒業論文および卒業設計に対し、建築・生活デザイン学科より授与。
・甘糟未帆「スマートフォンを利用した災害時の簡易的照明の照度および配光分布の調査」〈卒業論文〉指導：羽入敏樹教授
・白湯寛樹「日本におけるダムの歴史の変遷と今後の課題 - 水と共に生きる地域 -」〈卒業論文〉指導：佐藤秀人教授
・戸塚夏萌「光ダクトを通過する光量について - 形状や仕上げ材の影響を考える -」〈卒業論文〉指導：星和磨教授
・萩原健太「一方向吊屋根の基本的力学性状に関する小規模模型実験」〈卒業論文〉指導：廣石秀造准教授
・山田幸輝「MATSUKAWA BERTH - 松川の水を利用した親水商業建築 -」〈卒業設計〉矢代眞己教授・石田優助手

研究室紹介

研究テーマ **空間構造に関する研究、個別要素法を利用した歩行者の動線シミュレーションに関する研究、構造物の非線形解析に関する研究など**

研究室名 空間構造システム研究室
 教員名 准教授・野内英治
 キーワード 建築構造/木質構造/材料力学/応用力学/構造解析/数値解析/構造実験/シェル/非線形解析/有限要素法
 企業等への要望 共同・受託研究の要請 実作・試作等の協力 研究成果の事業化等

研究概要 当研究室では、主に数値計算による各種構造解析法に関する研究を行っています。近年設計分野では有限要素法による解析が一般化され、線形解析においては相当レベルの解析が可能になっています。しかしながら、非線形性の強い問題に対しては今なお研究を要する場合があります。当研究室の主題でもあります。たとえば、線材要素による構造物の大変形解析や、個別要素法によるコンクリートの崩壊解析、また、個別要素法を歩行者の動線解析に応用した建物からの避難シミュレーションや展示場等を想定した動線計画シミュレーションなど、研究テーマは多岐にわたります。さらに数値的に得られた解の妥当性を検討するため、各種の構造実験も行っています。最近ではCLTパネル(直交積層板)の接合部におけるせん断実験や、面内曲げ試験などを委託研究として行いました。30チャンネルの動ひずみデータロガーなどを所有し、小規模程度の実物大あるいは模型による静的・動的実験も行っています。



アルミ棒による単層ラチスドームの座屈実験

連絡先◎工学部建築学科郡山キャンパス16号館207号室 TEL 024-956-8744 E-mail nouchi.eiji@nihon-u.ac.jp

研究テーマ **災害時におけるコンビニの運用実態と車中泊に関する研究、都市の嗜好性と観光資源に関する研究、空き家の現状と対応に関する研究**

研究室名 都市計画研究室
 教員名 教授・廣田篤彦
 キーワード 都市/地方都市/避難/観光/活性化/都市問題
 企業等への要望 共同・受託研究の要請 実作・試作等の協力 研究成果の事業化等

研究概要 当研究室では、都市・地域空間における諸問題に対し、フィールドワークや調査・分析を通して、定量・定性的な特性や課題を明らかにすることにより、その解決に資する提案を行うための研究を行っています。都市部では土地利用、地方都市では地域活性化や観光などを主なテーマとし、また防災に関しては、東京区部における延焼遮断帯としての路線式地域地区指定の実態や、熊本地震におけるコンビニの運用と駐車場における車中泊の実態と有用性などについて調査・分析を行っています。また、最近では、空き家対策にも関わっており、自治体と連携して実態や対策を検討しています。東日本大震災の発生から10年が経過し、東北地方では、徐々に復興が進みつつある中、今後は経済的・社会的側面での復興が期待されます。特に原発事故の影響を抱えた福島県の場合、故郷を離れた人びとの帰郷とともに、産業や観光の衰退と崩壊したコミュニティの再生は重要課題のひとつであることから、たとえば風評被害の払拭やPR方法など、心理的・社会的側面における復興のあり方についても着目しており、今後の研究課題のひとつとして位置づけています。

連絡先◎工学部建築学科郡山キャンパス9号館308号室 TEL 024-956-8749 E-mail hiroya.atsuhiko@nihon-u.ac.jp

学部ニュース

理工 建築学科トピックス

◎「2020年度グッドデザイン賞」(主催/公益財団法人日本デザイン振興会)で、二瓶士門助教がデザイナーをつとめた野村不動産株式会社による「マンションでの床空調システムの取り組み[床快full(ゆかいふる)]」が「グッドデザイン・ベスト100」を受賞した。

◎「日本騒音制御工学会2020年秋季研究発表会」(主催/日本騒音制御工学会)で、青木怜依奈さん(富田研 M1)の論文「1週間を対象とした道路交通振動による実住宅内の振動加速度に関する実験的検討」と、岩崎萌都さん(同)の論文「世田谷区立次大夫堀公園民家園における主屋を対象とした音響調査」が学生優秀発表賞を受賞した。

◎「第4回アート&デザイン新世代賞」(主催/Design Stories)において、荒木鴻歩さん(佐藤光彦研 M1)の作品「立体駐泊場」が「特別賞」を受賞した。テーマは「君がリデザインするアフターコロナのホテル」。

◎「LUCHTA challenge2020」(主催/建築学生情報サイトLuchta)で、佐藤光彦研の荒木鴻歩さん(M1)、田村慶也さん(M1)の作品「紐乗(ひものれん)紐で気づく昇降機の日常」が「特別賞(南関東エリア賞)」を受賞した。テーマは「街を強くする一滴のデザイン」。

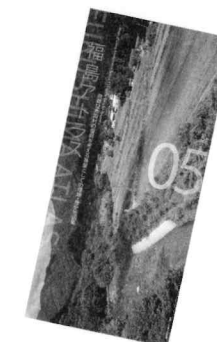
理工 海洋建築工学科トピックス①

◎新宮清志名誉教授は、2021年1月1日付で、日本機械学会から永年会員の称号を授与された。

理工 トピックス①

◎海老澤健君(浦部研・R1年度卒業)は、3月29日に行われたJIA全国学生卒業設計コンクール2020東北支部作品選考会で作品名「Drip 渋谷川植物園」が全国への選出作品に選ばれた。

◎浦部智義教授と浦部研究室関わった、福島アトラス05「避難12市町村の復興を考える基盤としての環境・歴史地図集-飯館村編-」が3月31日に発行された。



「福島アトラス05」の表紙

◎岡部真純さん(市岡研 M2)は、9月21日に開催された令和2年度日本造園学会東北支部大会のポスターセッションにおいて、「白河市における歴史的風致形成建造物に関する調査・研究」が優秀学生賞を受賞した。

◎浦部智義教授と山岸吉弘専任講師が執筆した、日本建築学会編「建築設計のためのプログラム辞典-名設計の本質を探る-」が10月1日に鹿島出版から出版された。

◎和久井亘君(浦部研 4年)は、10月27日、全国陶器瓦工業組合連合会、(一社)全日本瓦工事業連盟が主催する第5回賞賞学生アイデアコンペティションにおいて、作品名「KAWARA BLIND」が佳作に入選した。

◎出村克宣元教授(日本大学常務理事)は11月6日、日本大学から名誉教授の称号を授与された。

桜建会報 No.120 2021-March
 発行人 岩崎俊治
 編集 桜門建築会広報委員会
 〒101-8308 千代田区神田駿河台1-8-14
 日本大学理工学部内

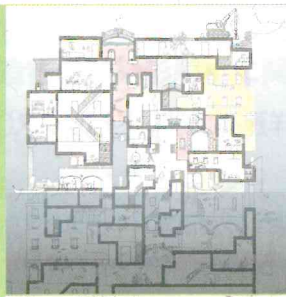
広報委員会
 委員長 佐藤慎也(理工学部建築学科)
 副委員長 塩川博義(生産工学部建築工学科)
 矢代真己(短期大学部建築・生活デザイン学科)
 委員 大川三雄(理工学部建築学科)
 山本和清(理工学部海洋建築工学科)
 亀井靖子(生産工学部建築工学科)
 齋藤俊克(工学部建築学科)
 北川健太(セカイ)
 大西正紀(mosaki)
 西山麻夕美(フリー編集者)

桜建会事務局
 住所・所属の変更、クラス会の開催、投稿、会費、名簿など桜建会全般についてお気軽にご連絡、お問い合わせください。理工学部5駿河台校舎タワースコラ7階S708奥
 TEL03-3259-0649 FAX03-3292-3216
 E-mail kaiin@okenkai.jp
 ホームページ <http://www.okenkai.jp/>
 専任/星野麻衣子
 非常勤/櫻井佐和、大木明子
 業務時間/AM10:00~PM5:00(月~金)

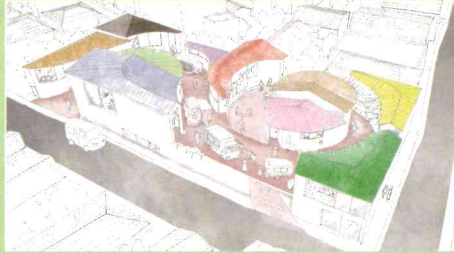
生産工

トピックス

◎第12回ハーフェレ学生デザインコンペティション2020『世界のどこかにたつ家』で、「水をあげる」白石せらさん(岩田研 M1)、井山智裕君(北野研 M1)が成瀬賞を受賞、「水都の記憶、届け明日」福井優奈さん(篠崎研 M1)、井山智裕君(北野研 M1)が一次を通過した。
◎第14回長谷工住まいのデザインコンペティションの1次審査会において、「くるまのくるまち」清亮太君、片淵透君、星川大輝君(以上、岩田研4年)、高橋朋君、槌田美鈴さん(以上、岩田研 M1)が佳作に選出された。(2次審査は令和3年2月21日にオンライン開催)



右/「水をあげる」
中/「くるまのくるまち」
下/「水都の記憶」



上/「まちの縁台に腰かけて」 下/葛尾村復興交流館「あぜりあ」



下/「エレメントが動く時」 右/「雪代を澄ます」



理工

海洋建築工学科トピックス②

◎全国の環境系、景観系関係の作品を集めたコンペである、「土木デザイン設計競技景観開花。2020(第16回)」で、公開審査を経て横畑佑樹さん(M1)、根本一希さん(M2)、中村数基さん(4年)、藤田大輝さん(4年)、小林功基さん(3年)、有馬成美さん(3年、以上佐藤信治研)の「雪代を澄ます」が、最優秀賞に選ばれた。作品は、豪雪地帯である秋田県秋田市仁井田地区雄物川周辺で、冬季の除雪作業に着目したもので、
◎「歴史的空間再編コンペティション2020(第9回)」で、公開審査を経て根本一希さん(M2)、中村美月さん(M1)、渡邊康介さん(元 M1、以上佐藤信治研)の「エレメントが動く時-廃線を活用したインフラストラクチャがつくる新たな住まい方-」が、準グランプリ(2位)を受賞。作品は、東京都北区の廃線路を利用し、線状のまちを動くエレメントが抜ける構成をすることで、失われた流れを再生し、「内部空間と外部空間」「同じ敷地の住民同士」「敷地の住民と周辺地域住民」「住まい手と商業」をつないでいく手法が高く評価された。

工

トピックス②

◎和久井亘君(浦部研 4年)は、10月23日に行われた第24回JIA東北建築学生賞の審査において、作品名「まちの縁台に腰かけて」が最優秀賞を受賞した。
◎浦部智義教授と浦部研究室が計画、設計および運営に関わった葛尾村復興交流館「あぜりあ」が2020年度グッドデザイン賞を受賞した。

短大

トピックス

◎「インテリアプランニングコンペ2020」(主催/日本インテリアプランナー協会)で学生9名が入賞・入選を果たした。建築・インテリアを志す若手を育成するための新たな場の創出を目的に実施されたもので、6メートル角のキューブ内に「つながるインテリア」をデザインすることがテーマとされた。入賞の特別審査員 マニュエル・タルディッツ賞は、渡邊雅貴さん(矢代研 2年)の「RIPPLE-シェアする「映え」空間-」。入賞のスマールワールズ

TOKYO 賞は、北野由莉子さん(矢代研 2年)の「A La Lumière」。入選は、中里真季子さん(矢代研 2年)の「Time in Wonderland」、水上桃花さん(矢代研 2年)の「Knockin' on a Heaven's Door?」、千藤颯太さん(1年)の「黄金比の空間」、中村鉄平さん(1年)の「The origins of Humanity」、福田晴菜さん(1年)の「Connect Doors」、藤木雪子さん(1年)の「Mini Art Hall」、榎夏海さん(1年)の「bubble」。

上/「A La Lumière」 下/「RIPPLE」

